

2019年度事業報告書

2019年1月1日から2019年12月31日まで

特定非営利活動法人フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーJAPAN

1. 事業の成果

2019年、ラオ・フレンズ小児病院（LFHC）の患者数は、2015年の開院以来のべ10万人以上にのぼり、その数は年々増加傾向にある。昨年と比べ外来患者数は13%増、入院患者数は25%増、新生の患者数は40%増、救急患者数にいたっては76%増となった。教育病院として継続して医師や看護師へ教育の場を提供するとともに、将来的にラオス人に運営を託せるようリーダー育成にも力を入れ、4名の看護師が看護部を率いる体制を作ることができた。また、3年間の小児専門医育成プログラムを確立し、プログラムを修了した医師へLFHCより小児専門医認定証の発行が可能となった。訪問看護においては、374名の子供たちを訪問し、フォローアップケアを実施した。年間の走行距離は、25,000キロにわたり、これはラオスのルアンパバーンからロンドンまでの往復距離に相当する。昨年より継続して小児栄養失調に対するプログラムを実施し、栄養失調の子供たちの治療に努めた。また、LFHC初となる、遺伝性血液疾患である「サラセミア」の患者さんの脾臓摘出手術が実施された。その他、子供のビタミンB1（チアミン）欠乏症に関する研究の受入病院となり、また、最新の画像診断システム及び電子カルテを導入したことで、管理面での改善もみられた。助成事業として、カンボジアの「アンコール小児病院」に対し、カンボジアの医療従事者のスキル及び提供する医療レベルの向上と地域住民の衛生予防及び医療に対する意識改善を図るため、継続して助成支援を行った。ミャンマーにおいては、現地の協力団体と話し合い、2020年度は活動を実施しない方向で進めることとなった。

国内においては、クラウドファンディングや支援キャンペーンを通して資金確保に努めた。また、継続して赤尾理事の活動報告会やチャリティ・ガライメント等を開催し、団体の認知度向上を図り、アニュアルレポートやSNS等を通し、知名度向上に繋げた。支援者、関係者などからLFHCへ寄贈された医療品等の輸送・運搬事業も継続して行い、病院で必要とされる物資を届けることができた。

2. 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(千円)
助成事業	アジアの恵まれない子供たちの医療支援を目的とする団体へ助成を行った。	通年	アンコール小児病院	519名	1)カンボジアの医療従事者のべ500名以上 2)不特定多数のカンボジアの子供、教師や地域住民	39,203
医療施設運営・教育・予防事業	「ラオ・フレンズ小児病院(LFHC)」の運営、医療・教育・予防事業を行った。	通年	ラオ・フレンズ小児病院	139名	1)不特定多数のルアンパバーン地区の子供 2)LFHCスタッフ及びその他医療施設スタッフのべ150名以上	48,458
スタッフ派遣事業	専門家を派遣し、スタッフや住民へ医療・予防教育等を行った。	通年	ラオス	1名	ラオスの医療従事者約100名及び不特定多数の地域住民	749
医療物資等運搬事業	病院のために寄贈された物品、備品等の輸送手配や、運搬を行った。	通年	法人事務所、他	11名	不特定多数の医療従事者と患者	55
普及啓発事業	WEBサイトやリーフレット、アニュアルレポートの活用、イベント等で広報に努めた。	通年	法人事務所、他	約30人	不特定多数の寄付者及び参加希望者	17,418